

日中韓三カ国環境大臣会合 (TEMM12) 開催のお知らせ

平成22年5月22日(土)、23日(日)北海道千歳市、苫小牧市で12回目の日中韓三カ国環境大臣会合が開催されます。

日本・中国・韓国は共に東アジアに位置し、地理的にも歴史的にも相互に深い関係を持ってきました。一方で、近年では大気や海洋などを通じて様々な環境問題も共有しており、その対策において今後も一層の協力が求められています。こうした背景のもと、平成11年から毎年、日中韓三カ国環境大臣会合 (TEMM) が開催されています。

TEMMでは、三大臣が率直な意見交換を行い、日中韓での環境協力の促進や環境共同体意識の向上とともに、気候変動や生物多様性の喪失といった地球規模の問題についても対話を行います。



Tripartite Environment Ministers Meeting among Japan, China and Korea

日中韓三カ国環境大臣会合

<http://www.env.go.jp/earth/temm.html>

環境省 地球環境局 環境保全対策課 環境協力室

〒100-8975 東京千代田区霞が関1-2-2
TEL:03-5521-8248 FAX:03-3581-3423

環境省北海道地方環境事務所

〒060-0808 札幌市北区北8条西2丁目札幌第一合同庁舎3F
TEL:011-299-1950 FAX:011-736-1234

北海道環境生活部環境局環境推進課環境戦略推進グループ

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目
TEL:011-204-5188 FAX:011-232-1301

苫小牧市総合政策部政策推進室政策推進課

〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5-6
TEL:0144-32-6111(代表) FAX:0144-34-7110

千歳市企画部市民協働推進課

〒066-8686 千歳市東雲町2丁目34番地
TEL:0123-24-0482 FAX:0123-22-8852

本書は、環境に配慮してFSC認証林、及び管理された森林からの製品グループ紙を使用しています。印刷インクには、再生産可能な大豆油、亜麻仁油、桐油、ヤシ油、パーム油など、植物由来の油、及びそれらを主体とした廃食用油などをリサイクルした再生油を使用しています。



このパンフレットは再生紙を使用しています。



第12回 日中韓三カ国環境大臣会合 開催地案内

北海道・千歳・苫小牧

環境への
取組み

地球のいのち、つないでいこう



生物多様性

ようこそ、美しく雄大な 自然とふれあえる大地、北海道へ。

北海道には、約71,000haの世界自然遺産地域のほか、6つの国立公園、5つの国定公園があり、公園の総面積は約860,000haにも及びます。また、ラムサール条約登録湿地は、全国37カ所のうち12カ所を北海道が占めています。四季折々の表情で私たちをやさしく包み、いやしてくれる豊かな自然。それは同時に、キタキツネやエゾナキウサギなど、さまざまな動物たちのいのちを守り、育んでいます。



滝川の菜の丘



ニセコ積丹小樽海岸国定公園



朱鞠内道立自然公園



北オホーツク道立自然公園



鹿道のナキウサギ



野付風蓮道立自然公園



アザラシ



阿寒国立公園



暑寒別天売焼尻国定公園



鹿道のキタキツネ



日高山脈襟裳国定公園



釧路湿原国立公園



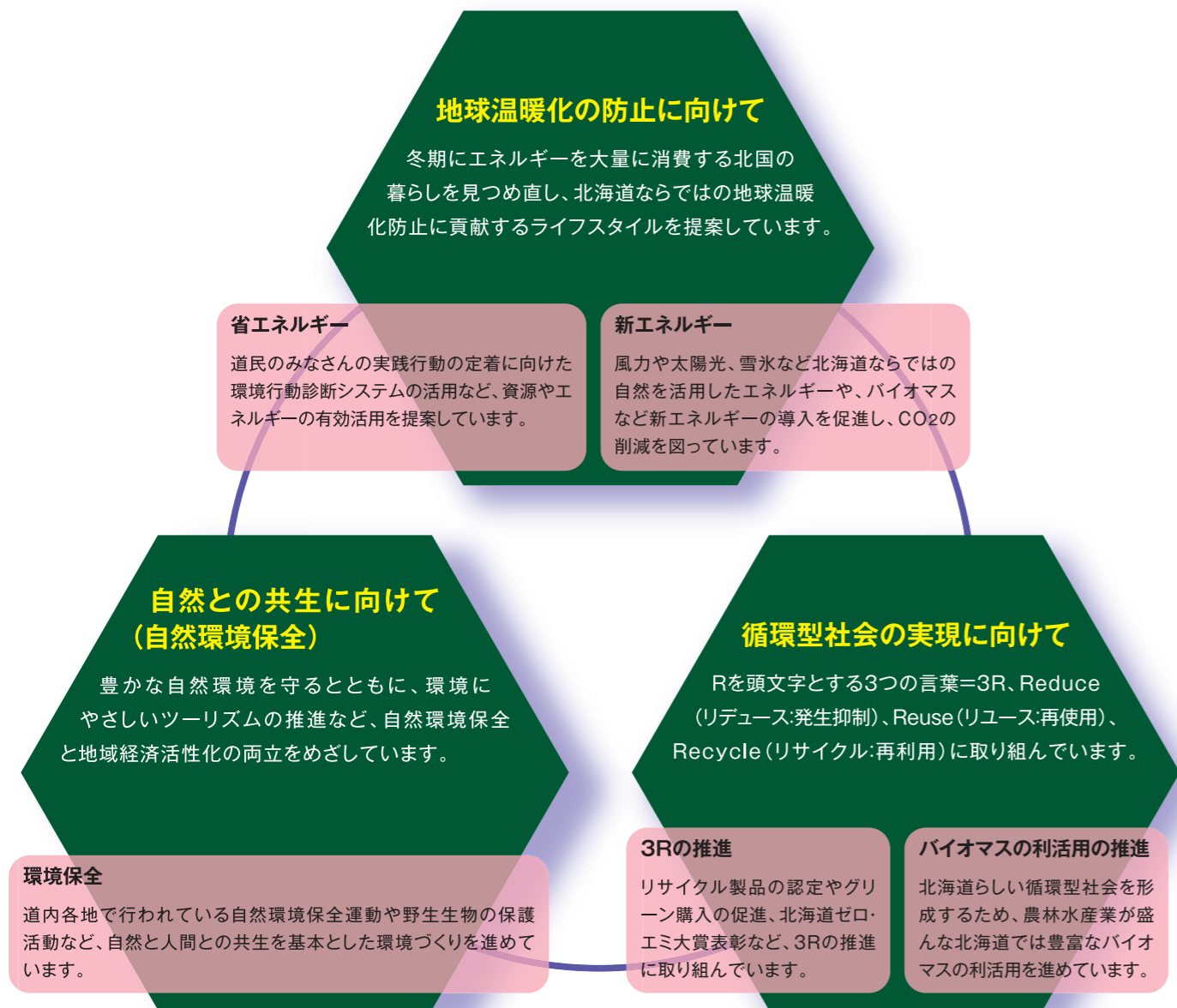
狩場茂津多道立自然公園



羊蹄山麓のマツ林

環境と調和する暮らしを实践する、エコアイランド北海道です。

北海道では、2008年4月、北海道洞爺湖サミットの開催に先駆けて、北海道らしい環境と調和したライフスタイルを呼びかける「北海道環境宣言」を発信しました。さらに、2009年3月には、洞爺湖サミットを契機とする環境への意識や行動の実践度の高まりを持続させるため、「北海道環境行動計画(どうみんグリーンアクション)」を策定。道民一人ひとりが環境にやさしいライフスタイルを心がけ、環境保全活動に取り組んでいます。



新エネルギーへの取組み

苫前グリーンヒル ウインドファーム(苫前町)

苫前町が実施した風況調査結果をもとに、1999年に日本初のウインドファーム(大規模集合風力発電所)として運転を開始。町営牧場の一角にあり、現在は出力1,000kWの風力発電機が20基、総出力20,000kWとなっています。



太陽光発電実証研究施設(稚内市)

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構から委託を受けた北海道電力(株)と稚内市が建設。稚内市は積雪、寒冷、強風と気象条件が厳しい反面、広大な土地を有しているため、その特性を踏まえてさまざまな研究を実施しています。



環境保護・生物多様性への取組み

釧路湿原の再生(釧路総合振興局)

釧路湿原は、日本最大の湿原。近年は湿原の減少、野生動植物の生育環境や景観の悪化、洪水調整機能の低下などが問題となっています。そこで、ラムサール条約に登録された1980年当時の環境に回復するという目標を掲げ、植林事業や環境教育、過去に直線化工事を行った河川を蛇行した元の姿に戻す事業などが進められています。



オロロン鳥(ウミガラス)の保護(羽幌町)

国内で唯一、北海道の天売島で繁殖しているウミガラスは、近年、生息状況の悪化により個体数が減少。デコイによる生息環境の維持改善などに力を入れています。繁殖時期の鳴き声から「オロロン鳥」と親しまれ、海岸を走る国道が「オロロンライン」と呼ばれるなど、地域の象徴となっており、その保護は地域の活性化にも結びついています。



市民による取組み

道民の森「水源の森づくり」(当別町)

「道民の森・神居尻地区」では、企業、団体、来場者の自主的な植樹活動や技術指導の支援などを通じて、地球温暖化防止対策はもとより、水源かん養機能の回復などを目的とした森林づくりを進めています。



「環境モデル都市」の取組み(下川町)

町の面積の約90%を森林で占める下川町は、FSC森林認証の取得、木質バイオマスボイラーの導入など森林環境の保全と持続可能な経済環境が両立するまちづくりに先駆的に取り組んできました。2008年7月に「環境モデル都市」に認定され、環境負荷の少ない次世代型「北の森林共生低炭素モデル社会」のまちづくりを進めています。





千歳市



オコタンペ湖



スカイ・ピア&YOSAKOI祭



苔の洞門



美笛の滝

美しい水と緑に包まれた北海道の中核都市、それが千歳市です。

石狩平野の南端に位置する千歳市は、豊かな自然に育まれた北海道の中核都市。内陸部最大の工業都市であり、新千歳空港を有する地の利から、国際交流も盛んです。国立公園に指定されている支笏湖をはじめ、オコタンペ湖、美笛の滝、苔の洞門など、美しい自然に包まれ、支笏湖から流れ出る清流千歳川が街を潤しています。

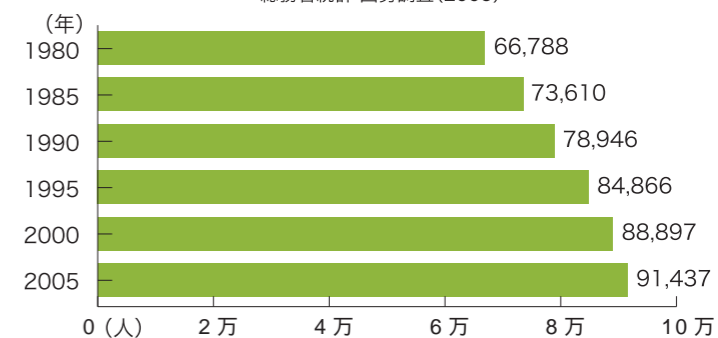
千歳市のデータ

内陸部に位置する千歳市は、梅雨や台風の影響が少なく、北海道の中では積雪量も比較的少ない。

面積: 594.95km²
 総人口: 93,497人(2009年12月31日現在)
 年間平均気温: 6℃~8℃

人口の推移

総務省統計 国勢調査(2005)



独自のマネジメントシステムで、環境対応を推進しています。

千歳市では、独自の環境マネジメントシステムを導入することで、市内事業所の環境対応を推進。CO₂排出量の削減やごみの減量を推進しています。また、市民の環境意識を高めるため、環境イベントの実施や児童・生徒への啓発、普及活動などにも積極的に取り組んでいます。

千歳市独自のマネジメントシステム

「ECOちとせ」認定制度

無料の認定制度導入で、幅広い事業所の意識・業務を改革。

「ECOちとせ」認定制度は、千歳市独自の環境マネジメントシステムであり、千歳市内の事業所を対象に「環境配慮行動の取り組み方」を定めた規格です。この規格に基づいて環境配慮行動を実践した事業所は、申請をすることで認定を受けることができ、認定された事業所には市から認定証が交付されます。この取組みを1年以上継続している19事業所を対象にした調査では、すべてのエネルギーで削減が進んでいることが実証されました。認定事業所全体では、2年間で223.1トンのCO₂排出量削減を実現しています。



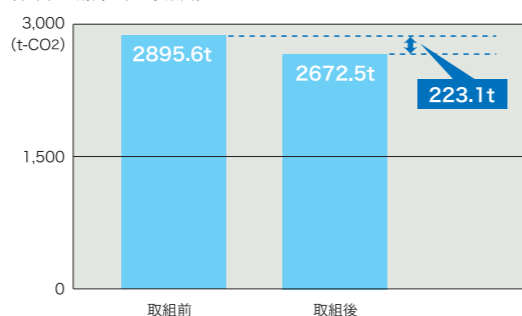
千歳市エコ商店認証制度

毎日の生活の場面で、省資源・省エネルギーの意識を向上。

千歳市エコ商店認証制度は、包装の簡素化、買い物袋(マイバッグ)の奨励、エコマーク商品の販売促進など、ゴミの発生の抑制、省資源・省エネルギーにつながる施策を実施している小売店を認証する制度。商店と市民のゴミ減量意識を高めるとともに、循環型社会の形成に役立てています。幅広い参加を促すため、より簡単に取り組むことができる制度として設定しています。



ECOちとせ認定事業所における二酸化炭素排出量合計推移 (取り組み期間1年の事業所)



企業の取組み

(株) キリンビール千歳工場

キリンビール(株)では、環境先進企業としてさまざまな取組を行っています。まず、容器包装の3R(発生抑制・再利用・再生利用)を積極的に推進。そのほかの分野におけるリサイクルにも取り組み、再資源化を積極的に進めています。また、地球温暖化の防止に向け、工場などにおける省エネルギーとともに、新エネルギーも導入。さらに、全国の工場において、水源地を守る運動も行っています。



(株) デンソーエレクトロニクス

(株) デンソーエレクトロニクスでは、「北海道の自然との調和」をコンセプトに、環境先進工場をめざして自然エネルギーの有効活用を図っています。そのひとつ、雪冷房システムは、冬期の降雪を貯雪しておき、その冷熱エネルギーを夏期の冷房に利用するシステム。事務棟、ロビー、PRホールの冷房に利用し、原油換算で1390Lの省資源と年間3.99tのCO₂排出量削減を実現しています。そのほか、太陽光発電なども積極的に導入しています。



エコ・カレッジ



エコ・カレッジは、小学校4年生から中学生までを対象にした、環境学習が効果的に行えるようにサポートするための制度です。環境関連行事や自由研究、学校での環境配慮実践などを通して、自らが課題を「見つけ」「考え」「解決する」ことができるように、市が各種の環境関連行事の情報を提供。実施した学習内容などに応じて段階的に評価・認定することで、環境への関心、学習意欲を高めていきます。最終段階では、エコ・カレッジ「ドクター」に到達します。

千歳科学技術大学の取組み

両面受光太陽電池を使った積雪寒冷地での太陽光発電実証実験

表も裏も光を受けることができる両面受光タイプの太陽電池は、垂直に立てて設置すると、太陽電池の方向が東西南北どちらを向いていても発電量はほとんど変わりません。また、垂直設置すると雪が積もらず、冬には雪面からの反射光を受けて夏より発電量がずっと多くなるという特徴があります。これまで、太陽電池は積雪寒冷地には不向きだと思われてきましたが、この実験を通じ、設置方法や構造を工夫することにより、北国の特徴を生かした発電が可能となります。

今後は、設置面条件の検討を行うとともに、雪が積もらず最大の発電量を得る設置角度条件の探索やパネルどうしの影の干渉を最小限にする配置の検討を行い、もっとも効率よく発電できる条件について研究を進めていきます。



J8サミット2008千歳支笏湖

「J8サミット2008千歳支笏湖」は、2008年7月、洞爺湖サミットの公式行事として千歳市を会場に開催されました。世界15カ国から若者が集まり、地球温暖化などをテーマに議論が行われ、G8メンバーへの提言を発表しました。千歳市では、支笏湖畔のフィールドトリップやエコ活動、浴衣プロジェクト、記念講演会などを実施。終了後も市民によるアイドリグストップ運動や地球環境講演会、環境イベントなどが盛んに行われています。





苫小牧市



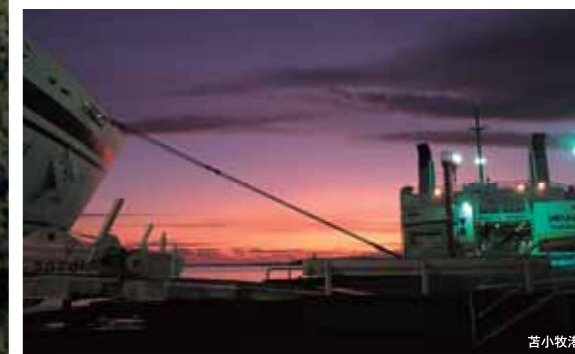
樽前ガロー



ウトナイ湖の白鳥



苫小牧市



苫小牧港

豊かな緑に恵まれた、北海道屈指の工業都市、それが苫小牧市です。

苫小牧市は、特定重要港湾である海の玄関「苫小牧港」を有し、空の玄関「新千歳空港」にも接し、鉄道、国道、高速自動車道などの交通アクセスに恵まれた活気あふれる都市です。

世界的にも珍しい三重活火山である樽前山のふもとに広がる広大な森林、ウトナイ湖をはじめとする湖沼など、豊かな自然と次代を担う工業とが調和しています。

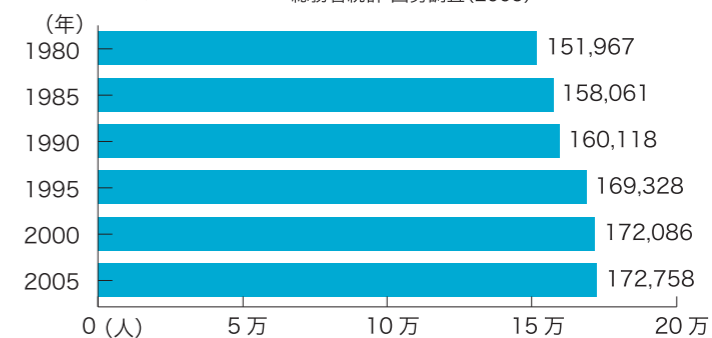
苫小牧市のデータ

太平洋に面する苫小牧市は、北海道の中では冬期の降雪量も比較的少なく、温和な気候である。

面積：561.61km²
 総人口：173,968人(2009年12月31日現在)
 年間平均気温：8.0℃

人口の推移

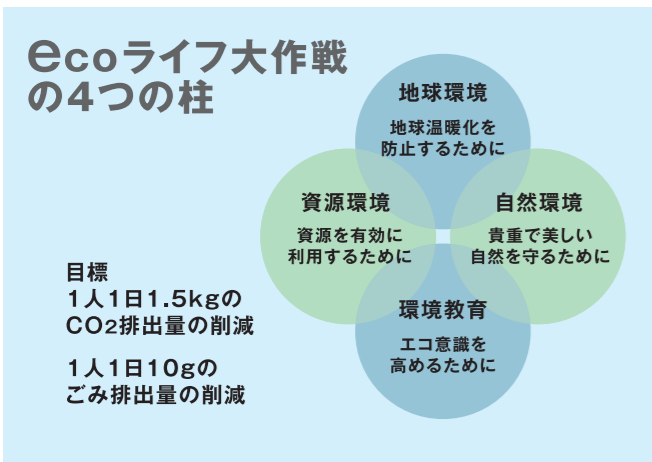
総務省統計 国勢調査(2005)



全市が力を合わせて環境に取り組み、事業を展開しています。

苫小牧市では、平成21年度の1年間を通じて、市と市民が力を合わせて環境問題に取り組み、環境問題に対する市民意識のさらなる向上、環境配慮行動の促進をめざして、35の事業を展開しました。平成19年度に展開した「ゼロごみ大作戦」では、市民1人1日当たりの家庭ごみ、前年度-16gを達成しました。

地球に^{イコ}ecoとしよう! Ecoライフ大作戦 ~053ステージ2~



地球温暖化の防止(地球環境)、資源の有効利用(資源環境)、美しい自然の保護(自然環境)、エコ意識の向上(環境教育)の4つの柱をテーマに展開。家庭ゴミのさらなる削減とともに、家庭でできるCO₂削減にも取り組み、1人1日1.5kgのCO₂削減を目標として全戸にパンフレットを配布しました。下記その他、ペレットストーブや太陽光発電システムへの助成、エコドライブ講習会、ウトナイ湖での漁業体験と湖岸清掃、小中学校への副読本配布など、合計35の事業を展開しました。

053(ゼロごみ)大作戦

苫小牧市の郵便番号〒053を「ゼロごみ」と読み、自然豊かな美しいごみのないまちとなるよう、「053(ゼロごみ)大作戦」を2007年度に実施。ごみ減量とリサイクルの推進をまちぐるみで継続しており、家庭ごみ約3,000トンの減量を図っています。



CO₂削減出前講座

地球温暖化の原因をはじめ、温暖化防止のために私たち一人ひとりにできることを具体的に紹介する講座を市内の全町内会で開催しました。



家庭用廃食油のリサイクル

家庭で使用した植物性食用油を市内のスーパーマーケットなどで拠点回収し、バイオ燃料化してごみ収集車の燃料などに活用。石けんなどにもリサイクルしています。

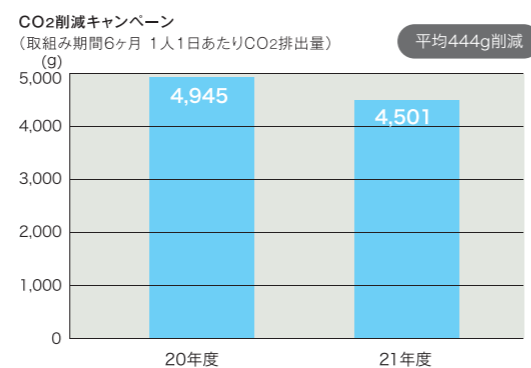
環境戦隊053(ゼロごみ)ファイブ

清掃担当職員によって、幼児向けのオリジナルヒーロー「環境戦隊053(ゼロごみ)ファイブ」を結成。さまざまな場所で環境啓発のアトラクションを行い、環境美化の大切さ、ゴミの分別、リサイクルの推進を呼びかけています。



CO₂削減モニター

33人の市民に協力していただき、1人1日1.5kgを目標にCO₂削減に取り組んでいただきました。その状況は、毎月市の広報にグラフ化して掲載。6ヶ月にわたるモニターの結果、毎月確実にCO₂の削減に貢献できたことを確認することができました。



CCS(CO₂回収・貯留)実証試験誘致

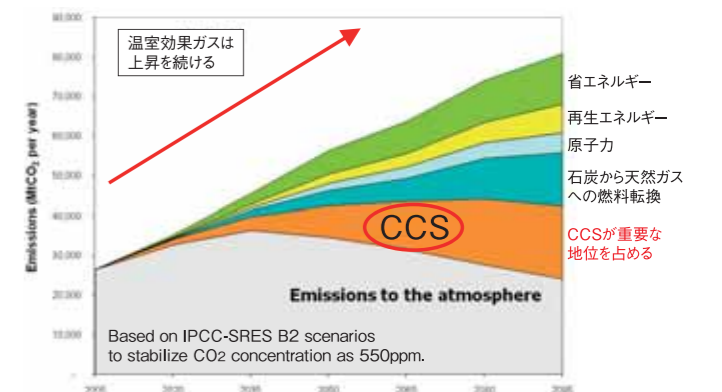
CCS(CO₂回収・貯留)は、CO₂対策の切り札といわれている技術で、工場などで排出されるCO₂が大気中に放散される前に回収し、安定した地層中などに貯留する技術です。洞爺湖サミットでは、2010年までに世界20カ所での大規模実証試験が開始されることを支持するという宣言が行われました。現在、日本各地で実証試験

の適地選びが行われており、苫小牧市はその有力候補地のひとつ。苫小牧市では、地球温暖化防止を支えるため、その誘致に取り組んでいます。



地球温暖化の切り札CCS

洞爺湖サミットで、2010年までに世界で20の大規模実証試験が開催されることを支持するとの宣言がなされた。



国立苫小牧工業高等専門学校の取り組み

「自然と産業の共生」を考える環境教育の実践

ラムサール条約に基づくウトナイ湖を中心とした自然保護区、及びそこから数キロと離れていない苫小牧東部開発工業地域を有する苫小牧市の地理的資源を最大限に活かした「自然と産業の共生」をテーマとする体験型環境教育を実践しています。卒業研究を中心とした教員・学生の研究活動の中で環境技術開発への取組を行う一方、このような技術者としての環境配慮に向けた意識付けの教育活動も充実化を図っているところです。



企業の取り組み

オエノンホールディングス(株)

オエノンホールディングス(株)は、北海道の農村の活性化、地球温暖化対策、新しい産業の創出などを期待し、苫小牧東部地域にバイオエタノール製造施設を整備し、国産バイオ燃料の製造実証に取り組んでいます。



開催地及び周辺の紹介

1日目 2010年5月22日(土) 千歳市



① 支笏湖

水深が深く、世界有数の透明度を誇る湖。水質の高さは、環境省の調査で2年連続日本一となりました。

② しこつ湖 鶴雅リゾートスパ 水の譚

千歳市における会場「しこつ湖 鶴雅リゾートスパ 水の譚」は、生命の源である「水」とその「いやしのチカラ」をテーマにしたリゾートスパです。



- 〒066-0281 北海道千歳市支笏湖温泉
- 札幌市内から車で1時間
- 千歳市内から車で30分
- 苫小牧市内から車で30分

会合予定

- ・大臣、知事、市長による出迎え
- ・支笏湖小学校児童による出迎え「支笏湖国際太鼓ジュニア」の演奏
- ・支笏湖畔視察
- ・日中・日韓・中韓二カ国会談



2日目 2010年5月23日(日) 苫小牧市



③ ウトナイ湖

周辺に水生植物群落や湿原が広がっているウトナイ湖。ラムサール条約登録湿地にもなっています。

④ ホテルニドム

苫小牧の象徴でもある樽前山の麓に、ゆったりと広がる原生林。その美しい森に包まれたリゾートが、苫小牧市での会場となる「ホテルニドム」です。



- 〒059-1365 北海道苫小牧市字植苗430
- 千歳空港から車で15分

会合予定

- ・大臣会合
- ・行動計画及びコミュニケーション署名、記者会見
- ・昼食会、記念植樹
- ・ウトナイ湖畔、野生鳥獣保護センター視察

⑤ 支笏湖ビジターセンター

支笏湖の豊かな自然に親しむための展示・体験施設がビジターセンターです。建物には、支笏湖周辺を産地とする自然素材を採用。太陽光発電やヒートチューブによる地熱エネルギーなどを利用した、環境配慮型の施設です。



支笏湖ビジターセンター

⑥ 苔の洞門

深さ最大約10m、総延長約420mに及ぶ枯れた渓谷に、苔がピロードのように密生している苔の洞門。奇岩が並ぶ幻想的な風景とともに、約30種類もの苔が見られ、学術的にも貴重な場所です。



苔の洞門

⑦ ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

ウトナイ湖野生鳥獣保護センターは、環境省と苫小牧市が共同運営する施設。ウトナイ湖の自然を紹介する展示のほか、屋内から野鳥が観察できるコーナーなどもあります。ウトナイ湖周辺の傷病鳥獣の救護、リハビリも行っています。



ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

⑧ 新千歳空港

2010年3月に、新しい国際線旅客ターミナルビルがオープン。フードコートやラウンジなど、さまざまな機能を備えた地上4階、地下1階、延べ床面積61,000m²の大型施設です。同空港では、世界最大の雪氷エネルギープラントも建設され、運用がスタート。これは、冬に降った雪を大量に保存しておき、その冷熱を夏の冷房に利用するというもので、空港施設のCO₂削減に貢献します。



新千歳空港